

公 益 社 団 法 人

福岡県作業療法協会会報

第126号 平成29年1月15日発行

(事務局)

〒802-0044 北九州市小倉北区熊本1丁目9-1 ONE OFF第2ビル101号

T E L 093-952-7587 発行責任者 志井田 太一 編集責任者 許山 勝弘

ホームページアドレス : <http://www.fuku-ot.org/>



特集：パーキンソン病をもつ方に対しての作業療法実践の視点
—非運動症状の特徴と作業療法評価を中心に—

目次

巻頭言：“準備すること” 公益社団法人福岡県作業療法協会 事務局長 中川 昇	・・・1
会長行動	・・・1
特集：パーキンソン病をもつ方に対する作業療法実践の視点 －非運動症状の特徴と作業療法評価を中心に－ 北九州リハビリテーション学院 作業療法学科 福岡大学大学院医学研究科 病態構造系 長城 晃一	・・・2
第4回理事会議事録	・・・8
臨床実習指導者研修（中級・上級）に参加して 八女リハビリ病院 通所リハビリテーション 村元 聖治	・・・11
各部・委員会からのお知らせ	・・・12
Occupation： 今宿病院 中島 純二	・・・18
リレーエッセイ： 通所介護 和楽庵 作業療法士 真珠 宗彦	・・・19
会員動向調査	・・・21



巻 頭 言 “準備すること”

福岡県作業療法協会 事務局長 中川 昇

『あけましておめでとうございます』

昨年、夏のリオデジャネイロオリンピックでは、メダルラッシュで金12個を含む41個（史上最多）、パラリンピックでは24個のメダルを獲得しました。体操団体・レスリング伊調選手の4連覇等は最後に逆転しての金メダル、バドミントン高松ペアのダブルス初の金メダル、陸上400mリレーでの銀メダル等……日本中が明るいニュースに包まれ、多くの感動を頂きました。

その反面、4月に熊本県で地震が起こり、多くの方がお亡くなりになり、甚大な被害に見まわれました。今、どこで何が起こるかは、誰にも予測できないことばかりです。それでは、今から私たちが何をすればいいのか、これといった答えは見つかりません。しかし、唯一私たちに出来ることがあるとすれば、準備することではないでしょうか。他県で起こったことも身近なこととして考え、各自が各自でできる準備をすることが大切だと思います。その中には、地域の中で知っていなければいけないこともあると思います。例えば、自分が住んでいる所の避難場所はどこにあるのか、もし知らない方がおられたら、一度地域の方に確認していただければと思います。

これからは、自然災害だけでなく常にいろいろなことを想定して、準備することが必要だと思います。日常の仕事の中でも準備をしていなくて慌てることが多々あります。そんなことにならないよう常に準備することを心がけたいと思います。

最後に公益社団法人福岡県作業療法協会（以下協会）もこれから起こる社会情勢を考え、できる限りの準備をしていきたいと思っています。そのためには、会員一人一人の協力がますます必要になってきます。協会のことを含め作業療法のことに分らないことがありましたら協会までご連絡ください。会員の方が少しでも協会を身近に感じていただけるよう努力（準備）をしていきたいと思っています。

追伸・・・今年も会員の皆様にとって良い年になりますように！

会長行動（平成28年10月～12月）

- | | | |
|-----|-----|--|
| 10. | 3. | 公益社団法人 福岡県作業療法協会 平成28年度第4回理事会 出席
場所：良想夢リハビリスポーツガーデン |
| 10. | 10. | 福岡県PT・OT・ST士会主催「介護予防指導者研修会（基本編）」 出席
場所：博多市民センター |
| 10. | 21. | ハートメディア2016 出席
場所：福岡市精神保健福祉センター |
| 10. | 22. | 一般社団法人日本作業療法士協会「福祉用具対策委員会」
協力事業「（仮称）生活行為の不便さを助ける道具等の情提供事業」運営会議 出席
場所：エイムアテイン |
| 10. | 31. | 北九州すこやか住宅推進協議会 平成28年度第2回理事会 出席
場所：小倉リーセントホテル |
| 11. | 6. | 福岡県PT・OT・ST士会主催「介護予防指導者研修会（応用編）」 出席
場所：エルガーラホール |
| 11. | 11. | 平成28年度第2回九州作業療法士会会長会 出席
平成28年度九州理学療法士・作業療法士合同士会会長会議 出席
場所：鹿児島市民文化ホール |
| 11. | 12. | 九州理学療法士・作業療法士合同学会2016 in 鹿児島 参加
場所：鹿児島市民文化ホール |
| 11. | 26. | 第34回日本感覚統合学会研究大会 in 北九州 参加
場所：北九州国際会議場 |
| 12. | 3. | 一般社団法人 日本作業療法士協会 地域包括ケアシステム推進委員会 出席
場所：一般社団法人 日本作業療法士協会事務所 |
| 12. | 5. | 公益社団法人 福岡県作業療法協会 平成28年度第5回理事会 出席
場所：良想夢リハビリスポーツガーデン |
| 12. | 11. | 福岡県PT・OT・ST士会主催「介護予防指導者研修会（基本編）」 出席
場所：石橋文化ホール |

はじめに

パーキンソン病 (Parkinson's Disease: PD) は、進行性神経変性疾患としては、認知症に次いで2番目に罹患率の高い疾患である。一般に50～60歳代での発症が多いことから、高齢社会に伴います増加が予測される¹⁾。2011年のPDのガイドラインでは、リハビリテーション（特に運動療法）は薬物治療との併用で、効果が期待されると明記された²⁾。特に、運動療法（理学療法）や発声訓練（言語療法）などは知見が積み重ねられ、PD患者へある一定の効果が期待できることが証明されてきた。作業療法に関してはコ克蘭ライブラリーによると、報告数も少なく根拠としては不十分との見解である³⁾。

一方で、近年PDの病態そのものの捉え方が飛躍的に進歩している。振戦、筋固縮、無動・寡動などの運動症状のみならず、自律神経症状や睡眠関連症状、認知・精神症状、ドーパミン関連症状など一般に捉えにくい非運動症状 (Non-Motor Symptom: NMS) が高頻度で出現することが明らかになった⁴⁾。これらNMSは運動症状が出現する以前から出現する症状もあり、PD患者のQOLや介護者の介護負担にも多大な影響を及ぼすことが報告されている⁵⁾。

筆者自身、臨床勤務時代を振り返るとPD患者に対し、作業療法士としてどのような支援をすべきか悩むことが多かった。あくまでも作業療法の視点は、活動と参加に焦点を当てることは言うまでもないが、対象者の生活を支援する専門性を考えると、一般に捉えにくい多彩な症状を最低限理解することは必要である。それと同時に、近年ではPD患者に対する作業療法を実施することで一部ポジティブな効果をもたらすことも報告されている⁶⁾。まずは作業療法士として臨床実践するうえで、本邦ではほとんど紹介されていない諸外国における知見に基づいたPDの作業療法実践のプロセスを理解する必要がある。特に、評価の視点は作業に焦点を当てた一連の実践プロセスの中に、PDの特有の評価の視点が付け加えられている。

今回は、作業療法実践で抑えておくべきNMSの概説と国際的に実践されているPDの作業療法実践（評価のみ）の知見を一部要約し、私見を交えながら紹介する。なお、介入については紙幅の関係等により本稿の中で言及できないことを事前にご了承いただきたい。最後に、筆者が交流のあるPDの患者団体（PD友の会）が12月に開設した「パーキンソン・カフェ」についても合わせて紹介する。

PDの非運動症状 (NMS)

NMSは多彩な症状が存在し、嗅覚低下や便秘、レム睡眠行動異常症 (RBD) などは運動症状が認められる数年も前から出現していることが多い。実際にレビー小体の構成成分である α シヌクレインの進展機序を説明したBraakの病理進展仮説では、 α シヌクレインの蓄積は迷走神経背外核と嗅覚に始まり (stage1)、脳幹では青斑核 (stage2)、黒質へ上行し (stage3)、大脳の間皮質 (stage4) から高次感覚連合野 (stage5)、一次感覚連合野 (stage6) へと広がっていく⁷⁾。我々が临床上よく目にする運動症状が出現する時期は、 α シヌクレインが黒質に凝集されたstage3からそれ以降の時期である。またBeachら⁸⁾が脳内の進展過程について新たな仮説を提唱しているが、 α シヌクレインの蓄積の場所に関連する臓器や機能的役割を担う部位に関連する症候が認められることである。

これらPD特有の症状の他にも、PD疾患の進行や加齢に伴い出現する可能性が高まる認知症状などや薬物の副作用により出現する日内変動やドーパミン関連症状などが存在する (図1)⁹⁾。その他多くの症状が存在するが、ここでは後述する作業療法評価に特に関連する症状のみを要約し概説する。

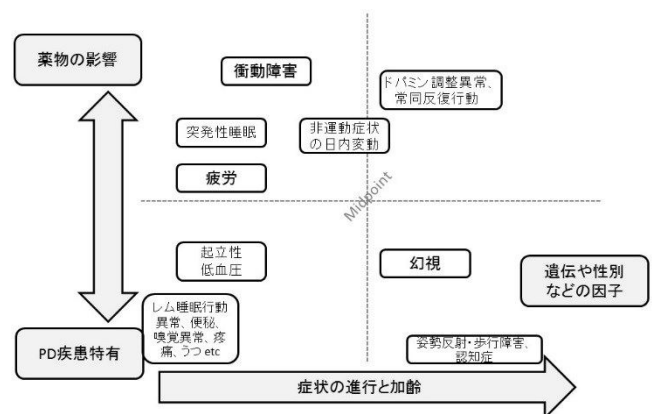


図1 パーキンソン病の非運動症状の進展 (Baroneら⁹⁾ より一部改変)

睡眠関連症状

睡眠障害には、入眠障害、睡眠の持続の障害、早期覚醒、熟眠感の欠如に分けられる。PDの最も睡眠障害で多いのは、睡眠の持続の障害（断片化）であり、経過とともに出現頻度が増す。原因は多岐にわたるがPDでは夜間頻尿は約80%の患者が問題として自覚しており¹⁰⁾、排尿後に再び寝床についても眠れないなどの訴えはしばしば聞かれ

ることから、睡眠の断片化の要因の一つと考えられる。また、夜間の運動症状の出現もあり、目覚めの際によく震えているなどの訴えもある。これらの症状に対し、ロチゴチンの貼付剤により夜間の運動症状や脚がむずむずする症状であるレストレスレッグス症候群（RLS）、熟眠感などが改善する¹¹⁾。特に睡眠断片化の改善は、夜間運動症状とRLSの改善と高い相関にあることから、薬物治療による改善が現時点で最も有効と考えられる。

レム睡眠行動異常症（RBD）は、被害的な夢を見る事が多く夜中に大声で寝言を叫ぶなど、そばに眠っている家族から気づくことが多い。

夜間だけでなく、日中の眠気なども出現する¹²⁾。日中の眠気の出現は男性、罹患期間、重症度と高い相関関係にある。RBDやRLS等の合併など一部の睡眠関連症状と関連があると報告されている。突発性睡眠などは、自動車運転中などにも出現することがあるとされているため、生活場面でも事故等のリスクが高まることが予測される。

消化器症状

消化器症状として、胃もたれ・胃食道逆流は約30%、便秘は約70%にみられ、特に便秘は当事者からの訴えも多くQOLの大きな阻害因子である^{13, 14)}。進行期以降のPD患者においては胃瘻増設における流動食で気管内逆流や誤嚥性肺炎をきたす場合もある。前述したように便秘は運動症状に先行してみられる。胃排出が低下するとレボドパの吸収が遅延し、薬効が減弱することから運動症状が増悪する可能性がある¹⁵⁾。実際には便秘薬を服用することや介護者による浣腸による排便の促進を耳にすることが多く、食事においては水溶性食物繊維の含まれる食品を摂取することが望ましいとされている。消化器臓器の活性化のためにも運動を積極的に行うことされているが、明確な根拠は乏しい。

日内変動・疲労

一般にパーキンソン病は進行するにつれ運動症状の日内変動が目立つようになり、薬効時間が短くなること（Wearing-off）がある。また、服薬したレボドパの効果と同時に出現する不随意運動（ジスキネジア）が出現することもあり、ジスキネジアは転倒にも関連する。他にも、レボドパの効果が極端に急激に乏しくなり、運動症状に影響を与える現象（On-off）や、内服から効果が出るまでに時間がかかる現象（Delayed-on）、内服しても十分な効果が得られない時間帯がある現象（No-on）などがある。

その他、レボドパ効果との因果関係が不明だが、症状として疲労が存在する。疲労はPD患者の約40%にみられ¹⁶⁾、一般に見過ごされやすいが患者の生活行動に影響を及ぼすと考えられる。

認知機能関連症状

PD症状が進行するにつれ、認知機能の低下が認められ、PD発症10年で60%の方が認知症を発症するとの報告もある¹⁷⁾。特に疾患後期においては認知症を発症後、3.3年程度で死亡につながる可能性が高いという報告もなされており¹⁸⁾、認知機能は把握する必要性の高い症状である。PDの認知機能症状としては主に遂行機能、視空間認知機能、ワーキングメモリーなどの障害が認められ、前頭葉一線条体回路の障害が要因と考えられる。これらが低下することにより必然的に、Dual task能力の低下もみられる。また、初期から何かしらの認知機能低下を示すことが示されているが、MMSE等の検査では得点の低下を認めないPD患者であってもワーキングメモリーなどの低下を認めることは少なくない。実際の生活遂行上では、様々な場面での意思決定や動作・行為の効率的操作などが求められるため、作業遂行と認知機能との関連性を含め評価することは極めて重要である。

プロセスと方法

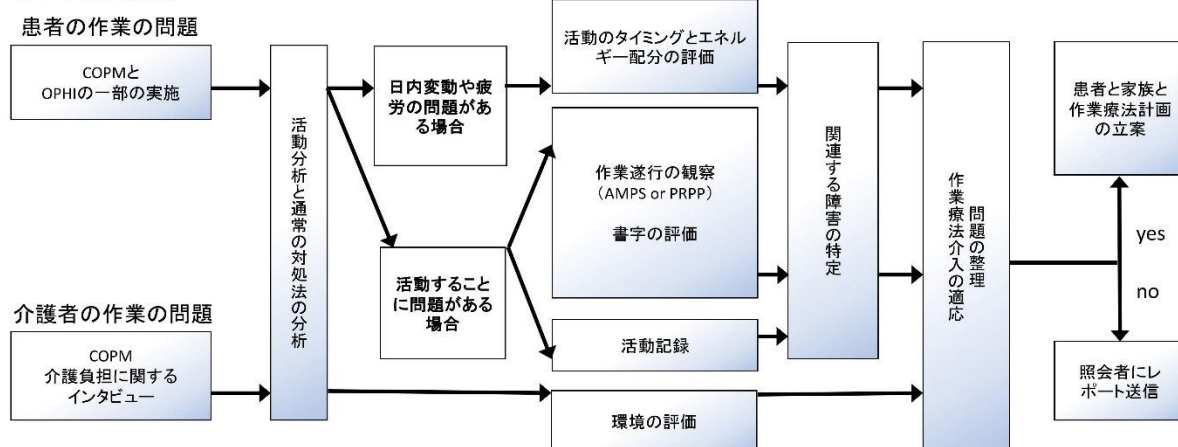


図2 パーキンソン病患者に対する作業療法：評価のフローチャート
(Guidelines for Occupational Therapy in Parkinson's Disease Rehabilitation¹⁹⁾ より一部改変)

PDの作業療法評価

オランダ作業療法協会の監修した「Guidelines for Occupational Therapy in Parkinson's Disease Rehabilitation¹⁹⁾」を要約し、私見を交えながら紹介する。

評価の目的は、意味のある作業の遂行を評価分析することである。プロセスとして、①活動や参加の場面での問題を特定し、優先事項を特定する、②作業遂行を妨げる、もしくは促進する「人-作業-環境」の側面から評価・分析、③作業遂行をポジティブに適応するために「人-作業-環境」の側面から可能性を分析する、とされている。留意すべき点として日内変動がある場合は、on時とoff時の両方の時間帯の遂行状況に差があるかを確認すること、夜間の問題についても確認すること、作業遂行の問題などのインタビュー（面接）はon時にすること、観察は実際の作業遂行に関連する文脈の中で行われることが望ましい、ことが記載されている。以下は、PDに対する作業療法ガイドラインの評価フローチャート（図2）に基づいて、特にPD特有の評価を中心に概説する。

家族（主に介護者）の介護負担の問題の特定

介護者は、介護を行う上で身体的・心理的負担を経験し、PD患者への介護に困難さを感じたり、場合によっては介護ができなくなる可能性もある。作業療法士は、PD患者の作業遂行を支援することに関連した介護者の負担と能力を評価することに注意する必要がある。諸外国ではPD患者の介護者向けに開発されたBelastungsfragebogen Parkinson Angehörigen-kurzversion（BELA-A-k）²⁰⁾という評価尺度があるが、日本語版は開発されていない。ワーキンググループでは、介護者が経験する具体的な介護状況における身体的・心理的負担、実践の問題、さらに介護負担に関連した社会的関係を把握するためには、介護者にもCOPMなどを用いて語りなどから聴取する方が、介護者の介護にまつわる見解と認識を把握するのに適していると示している。たとえば、介護の実践的問題に関することであれば、“介護の仕方や対処方法などで難しいことがあるか？”，“通常どのように解決しているのか？”，““現実的に〇〇があることで日々の生活に支障が出ていると感じていることがあるか？”など介護者へのインタビューを通して聴取することで具体的な困りごとを把握できる。

活動する時間と配分の評価

PD患者に日内変動や疲労症状が存在する場合は、日常の活動パターンや服薬および効果持続時間と関連性を慎重に分析する必要がある。ガイドラインのワーキンググループの見解では、①活動の性質、時間および持続時間（活動パターン）、②活動によって要求される身体的・精神的努力

（エネルギー消費）の程度、③疲労の程度、④服薬する時間とその影響（日内変動）、を把握する必要があると示している。評価方法の一つとして、活動記録による評価があり有効である。PD患者によっては、服薬管理として服薬日記を使用している方もいるので、その場合はそれを確認することで日内変動が確認できる場合もある。

活動パターンを評価する上では、時系列的に30分毎に活動内容と疲労の程度などを聴取することが望ましいとされている。活動パターンや経験した活動の負荷による変動を把握するには、週末を含む3日間の活動記録を評価することで、遂行技能の変動に関する十分な情報として確認できる²¹⁾。筆者の経験即になるが、入院時によるPD患者の評価は、決まったりハ時間や病院という制約された環境下のため活動パターンの変動が少ない傾向が予測されるため、入院リハにおける日中の活動パターンの評価は、優先的に重要性が高いかは定かでない。一方、地域在住PD患者は、週末と平日では活動パターンが大きく異なる方もいるので、活動が翌日の疲労度に影響するかなども把握することも必要である。我々は、自立歩行が可能なPD患者の日中の身体活動パターンに関する調査を行い、PD患者は身体活動量が低下していることと、活動強度別においては低強度活動、中強度以上の活動ともに低下していることが示された。さらに朝方、昼食時間帯、夜の8時以降の時間帯を除いてはコントロール群と比較しても、活動量が低下していることも示唆された（未公表データ）。要因との因果関係の検証は今後必要であるが、PDの活動パターンを実践の中でも把握する必要性は高い。

あわせて、その活動自体にどのような意味を持つのかを評価することが望ましい。それを把握するためには、作業質問紙（OQ）を合わせて使用することも推奨されている。OQは、上記活動記録と同様に30分間隔で情報を記録し、その人の有能性の認識や活動の価値、楽しみなどを評価する。

考慮すべき点として、OQなどは多くの思考を求める課題でもあるため、特にPD患者などは評価すること自体が疲労などに影響を及ぼす可能性も考えられるため、負担を考慮しながら使用することが記載されている。

作業遂行の観察

作業遂行の観察としては、AMPS、PRPP（The Perceive Recall Plan and Perform System）が挙げられ、書字に関する訴えがある場合には書字課題場面での観察が記載されている。AMPSは日本でも多くの認定資格者が存在し周知されていることから、本稿では省略させていただく。関心のある方は他書を参照されたい。

PRPPは、オーストラリアで開発された情報処理能力（知覚、想起、計画、実行）の視点から作業

遂行を観察し評価するツールである²²⁾。ワーキンググループの見解では、PD患者は情報処理能力の低下が認められることが予測されるため、AMPS同様にPRPPを観察評価として推奨しているが、PRPPを使用しPDを対象とした研究は充分に行われていない。

評価する時間と場所

特に日内変動を有するPD患者は時間帯により症状が変動する。基本的に一般的な測定などの身体的評価はon時に行うべきであるが、時間的文脈として生活全体を把握する上ではoff時の状態も観察することは重要である。また、レボドパの血中濃度が高い服薬直後は、ジスキネジア症状が出現しやすい方もいるので、前述した活動記録と変動時の観察評価は作業療法実践に繋がる有益な情報になると考える。

場所においては、PD患者に限ったことではないが、病院よりなるべく自宅など実際の生活場面で評価することが推奨されている。筆者の経験も特にPD患者はリハ室と自宅、その時の心理状態により動作や生活行為が大きく異なることを実感する。作業療法士が勤務する施設により、実際の生活場面で評価することは現実的に難しい部分があるかもしれないが、様々な文脈を考慮したうえで、評価することが重要である。

PD友の会の取り組み

筆者は現在、縁あってPDの患者会である福岡県パーキンソン病友の会と様々な行事や取り組みで交流する機会がある。その中で、当事者をふまえた家族の想いや現状など、言葉では言い尽くせないほど多くのことを学ばせてもらった。同時に作業療法の専門性をどのように活かし還元すべきかを試行錯誤している。また、医療従事者であれば症状などPDに対するイメージは容易であるが、世間一般にしっかりと周知されているとは言い難い。当事者自身もPDを発症したことで気分が落ち

込み、自宅に塞ぎ込みがちになり、身近に気軽に相談できる相手がいない当事者がいることも現状である。その中で、気軽に当事者同士が交流できる場を作るために福岡県PD友の会北九州支部が、平成28年12月11日に「パーキンソン・カフェ」をオープンした。

基本的に月に一度第2日曜に北九州市総合保健福祉センターで10時から15時までを開催予定としている。昨年から友の会北九州支部長と関連施設の医師らがタイアップして開設まで至った。具体的にどのような形式をもって運営するかは今後検討していくところであるが、第一に「気軽」に当事者・家族同士が話せる場であり、「気軽」に専門的な知識などの情報共有ができる場として試行錯誤して取り組んでいる状況である。今後は、福岡県パーキンソン病友の会のホームページでの開催日時・場所のアナウンスを予定している。

筆者もPD友の会と交流を始め4年ほどになるが、当事者同士の交流は多くのメリットをもたらすことを実感してきた。また、地域の中でPD患者や家族が、我々に求めていることも肌で感じる反面、教わることも多かった。進行性の経過をたどるPD患者の今後の人生に向き合う心境や、日々意識していること、生活行為に限らず生活場面で困ったときの工夫の仕方など十人十色であり、教科書では学べないリアルな生活像がそこには存在する。このような会に参加するようになり、恥ずかしながら筆者の考え方も以前とは変わり、作業療法士として理想だけでなく、できることを考え、もっとPDをもつ方たちに貢献しなければならぬと強く感じるようになった。PD患者の退院後や在宅生活を過ごす上で不安を少しでも解消することや社会参加の場の一つとして、発展していければと思う。このような会に興味がある作業療法士の方がいれば、筆者の所属先まで問い合わせいただければ幸いである。見学のみでもきっと良い学びになる。



図3 パーキンソン・カフェの風景



図4 左から、徳久氏（PD友の会北九州支部長），
魚住氏（産業医科大学若松病院医師），筆者

おわりに

本稿では、パーキンソン病をもつ方に対しての作業療法に関わる情報を中心に概説した。特に、捉えづらいNMSや特異的な評価の一部を中心に紹介させていただき、少しでも作業療法実践のお役に立てれば幸いである。実際には、PD特有の運動症状の理解や物理的環境の評価、さらには薬物の知識は言うまでもなく重要である。また本稿では紙幅の関係により割愛させていただいたが、介入において学術的には、作業療法の効果検証はまだ不十分である。しかし、個々に合わせたテーラーメードな視点は作業療法の独自性であり重要視する部分であるため、ナラティブな視点とエビデンスを融合し、PD患者に対しより良い作業療法実践に繋がるよう取り組む必要がある。今後さらなるPD患者に対する作業療法実践の発展に期待したい。

文 献

- 1) Yamawaki M. Kusumi M. Kowa H. Nakashima K: Changes in prevalence and incidence of Parkinson's disease in Japan during a quarter of a century. *Neuroepidemiology* 32:263-269, 2009.
- 2) 日本神経学会：パーキンソン病治療ガイドライン2011. 医学書院，東京，2011，pp.130-145.
- 3) Dixon L. Duncan D. Johnson P. Kirkby L. O'Connell H, et al.: Occupational therapy for patients with Parkinson's disease. *The Cochrane database of systematic reviews*:Cd002813, 2007.
- 4) Barone P. Antonini A. Colosimo C. Marconi R. Morgante L, et al.: The PRIAMO study: A multicenter assessment of nonmotor symptoms and their impact on quality of life in Parkinson's disease. *Mov Disord* 24:1641-1649, 2009.
- 5) Grun D. Pieri V. Vaillant M. Diederich NJ: Contributory Factors to Caregiver Burden in Parkinson Disease. *J Am Med Dir Assoc* 17:626-632, 2016.
- 6) Sturkenboom IH. Graff MJ. Hendriks JC. Veenhuizen Y. Munneke M, et al.: Efficacy of occupational therapy for patients with Parkinson's disease: a randomised controlled trial. *The Lancet Neurology* 13:557-566, 2014.
- 7) Braak H. Del Tredici K. Rub U. de Vos RA. Jansen Steur EN, et al.: Staging of brain pathology related to sporadic Parkinson's disease. *Neurobiology of aging* 24:197-211, 2003.
- 8) Beach TG. Adler CH. Lue L. Sue LI. Bachalakuri J, et al.: Unified staging system for Lewy body disorders: correlation with nigrostriatal degeneration, cognitive impairment and motor dysfunction. *Acta neuropathologica* 117:613-634, 2009.
- 9) Lim SY. Lang AE: The nonmotor symptoms of Parkinson's disease--an overview. *Mov Disord* 25 Suppl 1:S123-130, 2010.
- 10) Lees AJ. Blackburn NA. Campbell VL: The nighttime problems of Parkinson's disease. *Clinical neuropharmacology* 11:512-519, 1988.
- 11) Pagonabarraga J. Pinol G. Cardozo A. Sanz P. Puente V, et al.: Transdermal Rotigotine Improves Sleep Fragmentation in Parkinson's Disease: Results of the Multicenter, Prospective SLEEP-FRAM Study. *Parkinson's disease* 2015:131508, 2015.
- 12) Suzuki K. Miyamoto M. Miyamoto T. Tatsumoto M. Watanabe Y, et al.: Nocturnal disturbances and restlessness in Parkinson's disease: using the Japanese version of the Parkinson's disease sleep scale-2. *Journal of the neurological sciences* 318:76-81, 2012.
- 13) Pfeiffer RF: Gastrointestinal dysfunction in Parkinson's disease. *The Lancet Neurology* 2:107-116, 2003.
- 14) Sakakibara R. Kishi M. Ogawa E. Tateno F. Uchiyama T, et al.: Bladder, bowel, and sexual dysfunction in Parkinson's disease. *Parkinson's disease* 2011:924605, 2011.
- 15) Doi H. Sakakibara R. Sato M. Masaka T. Kishi M, et al.: Plasma levodopa peak delay and impaired gastric emptying in Parkinson's disease. *Journal of the neurological sciences* 319:86-88, 2012.
- 16) Okuma Y. Kamei S. Morita A. Yoshii F. Yamamoto T, et al.: Fatigue in Japanese patients with Parkinson's disease: a study using Parkinson fatigue scale. *Mov Disord* 24:1977-1983, 2009.
- 17) Buter TC. van den Hout A. Matthews FE. Larsen JP. Brayne C, et al.: Dementia and survival in Parkinson disease: a 12-year population study. *Neurology* 70:1017-1022, 2008.

- 18) Kempster PA. O'Sullivan SS. Holton JL. Revesz T. Lees AJ:Relationships between age and late progression of Parkinson's disease: a clinico-pathological study. *Brain : a journal of neurology* 133:1755-1762, 2010.
- 19) Sturkenboom I. Thijssen M. Gons-van Elsacker J. Maasdam A. Schulten M, et al.:Guidelines for occupational therapy in Parkinson's disease rehabilitation. Nijmegen/Miami: ParkinsonNet/NPF, 2012.
- 20) Spliethoff-Kamminga NG. Zwinderman AH. Springer MP. Roos RA:A disease-specific psychosocial questionnaire for Parkinson's disease caregivers. *Journal of neurology* 250:1162-1168, 2003.
- 21) Marinus J. Visser M. Stiggelbout AM. Rabey JM. Bonuccelli U, et al.:Activity-based diary for Parkinson's disease. *Clinical neuropharmacology* 25:43-50, 2002.
- 22) Steultjens EM. Voigt-Radloff S. Leonhart R. Graff MJ:Reliability of the Perceive, Recall, Plan, and Perform (PRPP) assessment in community-dwelling dementia patients: test consistency and inter-rater agreement. *International psychogeriatrics* 24:659-665, 2012.

平成28年度 第4回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 開催日 : 平成28年10月3日(月) 19時00分～22時30分
II. 場所 : 良創夢 リハビリスポーツガーデン
III. 理事総数 : 20名
IV. 出席理事数 : 18名
V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 濱本孝弘, 中川昇, 深町晃次,
青山克実, 佐藤稔, 福田裕樹, 手島智康, 許山勝弘,
永田敬生, 大田登志樹, 平岡敏幸, 玉野和男,
黒木勝仁, 深井伸吾, 田中真純, 沖雄二(以上, 理事).
吉田秀樹(以上, 監事).
鐘ヶ江秀俊, 田邊慎一, 藤崎実知子(以上, 事務局)
欠席者氏名 : 轟木健市, 有久勝彦(以上, 理事), 原口健三(以上, 監事) (敬称略)

VI. 審議事項

1. 災害対策研修会への人員派遣について(竹中業務執行理事) →承認
日本作業療法士協会が主催する災害対策研修会に轟木健市氏(帝京大学 作業療法士)を派遣することについて提案.
2. 地域包括ケアシステム推進における研修開催費用修正について(深井保健福祉部担当理事) →一部修正の上承認
地域包括ケアシステム推進における研修会開催費用予算の追加について提案. 開催については, 全員異議なく承認. 予算については各ブロック予算内で予算変更という形で対応.
3. 平成29年度事業計画・予算について(中川事務局長) →承認
平成29年度事業計画・予算について提案.
4. MTDLP関連広報のFacebookの活用について(青山教育部担当理事) →承認(詳細検討)
MTDLP関連広報のFacebookの活用について提案. 内容の詳細は検討した上で掲載する.
5. 平成28年度福岡県作業療法士養成校への県協会入会の案内発送について(轟木筑後ブロック担当理事) →一部修正の上承認
平成28年度福岡県作業療法士養成校への県協会入会の案内発送について提案. 入会案内を作成し入会申込書も含めて県協会ホームページからダウンロードできるよう準備を進める.
6. 平成28年度保険委員会主催研修会の講師承認について(福田保険委員会担当理事) →承認
以下の講師依頼について報告.
「障害者総合支援法について」
講師: 濱本孝弘氏(聖ヨゼフ園 作業療法士 福岡県作業療法協会業務執行理事)
7. 平成28年度福岡県訪問リハビリテーション実務者研修会講師承認について(福田保険委員会担当理事) →承認
以下の講師依頼について報告.
また, 「地域包括ケアシステムでリハビリ専門職に期待すること」「言語聴覚士による訪問リハビリテーション」については, 現在講師調整中のため決まり次第, 三役の承認を得ることとなった.
「災害リハ+地域包括ケア+訪問リハ」
講師: 赤津嘉樹氏(福岡JRAT 小倉リハビリテーション病院医師)
「活動/参加へのアプローチ」
講師: 露木昭彰氏(訪問リハ振興財団 理学療法士)

8. 筑後ブロック研修会の講師承認について（轟木筑後ブロック担当理事） →承認
 以下の講師依頼について報告。
 身体障害部門
 講 師：本多亮平氏（千鳥橋病院リハビリテーション技術部OT科科长）
 地域老年期障害部門
 講 師：音成龍司氏（音成神経内科・内科クリニック院長 医師）
 精神障害部門
 講 師：東島愛子氏（特定非営利活動法人 earthcollar ワークショップアロハ 作業療法士）
 講 師：松原涼輔氏（株式会社 ライクラボ 専務取締役）
 発達障害部門
 講 師：中島栄子氏（聖マリア病院 言語聴覚士）
9. 作業療法啓発イベントに関する講師選定承認について（永田事業部担当理事） →承認
 平成28年10月30日（日）作業療法啓発イベントについて以下のように講師依頼することが報告。
 仮テーマ：「ひとは作業をすることで元気になれる」
 1) 仮題：より豊かな暮らしを求めて～福祉機器を身近なものに～
 ①横尾和親氏（横尾器械株式会社 代表取締役）
 2) 仮題：作業とわたし（片手でできる革細工体験）
 ②葉山靖明氏（株式会社ケアプラネッツデイサービスけやき通り 代表取締役）
 ③藤野隆氏（NPO法人「学びあい」に所属）
 3) 仮題：「あきらめない心」が伝わるメロディ（義手によるバイオリン演奏）
 ～義手（失った片腕）が与えてくれたもの～
 ④野村真波氏（義手のバイオリニスト）
 ⑤柴田八衣子氏（兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター中央 病院 作業療法士）
10. 福岡東ブロック研修会の講師承認について（大田福岡東ブロック担当理事） →承認
 以下の講師依頼について報告。
 「脳血管障害者のための心理社会的メソッド講習会」
 講 師：小林幸治氏（目白大学保健医療学部 作業療法学科准教授）
 葉山靖明氏（株式会社ケアプラネッツ代表取締役）
11. （仮）嘉麻市在宅医療推進協議会 住民向け研修会講師承認について →承認
 （平岡筑豊ブロック担当理事）
 以下の講師依頼について報告。
 講 師：手嶋雄太氏（筑山会 松岡病院 作業療法士）
12. 筑豊ブロック研修会講師承認について（平岡筑豊ブロック担当理事） →承認
 以下の講師依頼について報告。
 講 師：黒田隆之氏（アイエック訪問看護ステーション 作業療法士）
13. 北九州ブロック研修会について（玉野北九州ブロック担当理事） →承認
 以下の講師依頼について報告。
 「（仮）高次脳機能障害に対する評価，アプローチ」
 講 師：湊雅子氏（九州栄養福祉大学 作業療法士）
14. 正会員の入会について（中川事務局長） →承認
 平成28年7月17日から平成28年9月21日までの間に84名の入会があった。

VII. 協議事項

15. 災害対策に向けた取り組みについて（志井田代表理事） →承認
災害対策に向けた取り組みについて報告.
16. 平成28年度 第2回 会員向け福利厚生事業について（深町福利部担当理事） →承認
平成28年度 第2回 会員向け福利厚生事業について提案.
17. 理事会でのタブレット導入の件について（中川事務局長） →承認
理事会の円滑な運営と長期的な経費削減を目的に理事会でのタブレット導入について提案.

VIII. 報告事項（特記報告のみ記載。他、資料参照とする）

18. 代表理事行動について（志井田代表理事）
平成28年8月～9月の代表理事行動について報告.
19. 県協会宛て依頼案件について（志井田代表理事）
平成28年8月1日から9月30日までの間に県協会宛てに25件の依頼（研修会案内依頼10件、講師・委員派遣依頼4件、共催・講演依頼9件、その他依頼2件）があったとの報告.
20. 公益財団法人テクノエイド協会からの依頼について（志井田代表理事）
福祉用具プランナー登録更新制度の周知依頼についての報告.
21. 教育部主催研修会について（青山教育部担当理事）
主催研修会開催報告.
22. 作業療法業務功労者の厚生労働大臣表彰受賞者の審査結果について
(手島規約委員会担当理事)
大丸幸氏（九州栄養福祉大学 作業療法士）の受賞が決定したとの報告.
23. 北九州市議会議員への推薦について（志井田代表理事）
中村義雄氏（北九州市議会議員 作業療法士）を北九州市議会議員選挙において県協会として推薦することの報告.

IX. 次回開催日

平成28年度 第5回理事会

日時： 平成28年12月5日（月）19：00～

場所： 株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン

10月29日、30日に熊本市で開催された臨床実習指導者研修（中級・上級）に参加した。私は現在、病院併設の通所リハビリテーションで勤務しており、実際に臨床実習指導に携わることはないが、数年前まで回復期リハビリテーション病棟に勤務しており年に1～2回の臨床実習を担当していた。当時、見学への対応や指示・指導、レポートの作成等で多くの時間を要していたが、その頃クリニカルクラークシップ（以下、CCS）を導入する養成校もあり、養成校ごとの指導の差異に戸惑ったことを覚えている。私自身、日々の臨床の中で学生指導の重要性は強く認識しており、参加することを決めた。

日本作業療法士協会が定める「生涯教育制度」にて、臨床実習における研修制度が不十分との議論があり、「生涯教育制度」の教育部分の拡充として、2013年度から「臨床実習指導者研修制度」が開始された。今回は九州地区で3回目となる中級・上級の研修であり、九州各県から約45名の参加者があった。研修は、①臨床実習指導総論、②CCS/症例基盤型臨床実習、③症例レポート/症例報告の仕方、④コーチング法総論、⑤臨床実習に関する全体管理等のカリキュラムであった。そこでは共通して臨床実習における問題（指導者、学生、養成施設、養成施設と指導者の連携、患者の権利意識、法的側面）に触れられていた。

そもそも臨床実習で指導者は何をするのか？それは、作業療法士の仕事に触れさせ、学生の学んできた知識を実習という場で実践させてみて、その中で生じた課題や問題を修正し、正しい方向に導くように共に作業することである。「教える」のではなく学生の能力を「引き出す」こと、自分の作業療法を見せ、説明し、作業療法の魅力を、熱意を持って伝えることである。

教育とは、ある人を望ましい姿に変化させること（＝行動変容）であり、それが無ければ教育したとは言えない。そのためには、実習開始時に学生と共に実習終了時の到達点を設定することや継続的に見直すことが必要であろう。実習施設によっては2週目から症例を持つように準備を行う取り組みも紹介されていた。既に実践されている施設もあると思うが、私もこれには同意見である。

症例レポートはA3サイズ程度でいいのかもしれない。養成校の指導方針等にもよるが、ケースノートを充実するように指導すれば、それで事足りるだろう。現在でも多くの指導者は、レポートの内容不足や誤字脱字、言い回し等、細かい部分の指導に目が行き過ぎてしまい、指導者・学生双方の負担が大きい状況が聞かれる。一方で、レポート偏重の実習形態に替わってCCSの導入が少しずつ進んでいる。

しかし、医師や理学療法士は結果（プロダクト）を見るのに対して、作業療法士は経過（プロセス）を見る職種である。「何故その対象者にちぎり絵を選ぶのか？」といったプロセスこそ作業療法士には必要な視点であり、「見学・模倣・実施」をチェックするCCSに替えただけでは十分ではない。この点は、養成校と実習施設との情報交換を行いながら今後も模索が必要となるだろう。

実習のあり方についても指摘があった。教師、理容師、医師、弁護士、栄養士等、相手がいることで成り立つ専門職の養成課程において、指導者の立ち会いもなく学生が単独で対象者にアプローチで関わっているのは、残念ながら私たちセラピストだけのようだ。法的に問題がある。指導者不在の状況で、学生にアプローチを実践させている施設は早々に実習指導のあり方を再考すべきである。

私なりの見解では十分な内容をお伝えできなかったかと思うが、たいへん内容の濃い充実した研修会であった。研修会に参加すれば私が伝えたいことの何倍もの詳しい情報が手に入るのだから、是非とも参加をオススメする。なお、この研修会を受講し、要件を満たして本部協会に届け出を行うと「修了認定書」を頂けるようである。

臨床実習は卒前教育の一部であり、生涯を通した臨床教育の一部である。私たち臨床実習指導者は、これまでの医療介護情勢を踏まえて、自らの臨床経験や価値観等を動員して幾ばかりか先の将来を見据えて臨床にあたっている。しかし、臨床実習においては、学生が生まれ育った時代背景や価値観等を十分に知り得ていないのかもしれない。それらを知り、学生が望ましい姿に行動変容していくことが、自分自身の成長、ひいては作業療法士の成長になるのではないだろうか。そう思うと、普段私たちがクライアントに行っているのと同じことのように思えてくる。

各部・委員会からのお知らせ

【保険福祉部】

1. 報告事項

1) 活動報告

(1) 第6回高齢者支援ブロック実務者会議（筑後）

①日 時：平成28年9月7日（水）

②場 所：いきいき安武デイサービスセンター
研修室

③出席者：濱本孝弘，原野裕司，永田博明，
田中孝子，長野久雄，高山和規，
桑島俊明，石橋慎也，小山大作，
長野剛，深井伸吾

④内 容：自立支援ケア会議の活動報告，
活動予定について

(2) 第7回高齢者支援ブロック実務者会議（筑後）

①日 時：平成28年10月5日（水）

②場 所：いきいき安武デイサービスセンター
研修室

③出席者：濱本孝弘，原野裕司，永田博明，
長野久雄，桑島俊明，石橋慎也，
高山和規，浅井完太，小山大作，
長野剛，深井伸吾

④内 容：自立支援ケア会議の活動報告，
活動予定について

(3) 第8回高齢者支援ブロック実務者会議（筑後）

①日 時：平成28年11月2日（水）

②場 所：いきいき安武デイサービスセンター
研修室

③出席者：濱本孝弘，原野裕司，永田博明，
長野久雄，桑島俊明，石橋慎也，
高山和規，浅井完太，小山大作，
長野剛，田中孝子，深井伸吾

④内 容：自立支援ケア会議の活動報告，
活動予定について

(4) 第9回高齢者支援ブロック実務者会議（筑後）

①日 時：平成28年12月7日（水）

②場 所：久留米リハビリテーション病院

③出席者：濱本孝弘，田中孝子，長野久雄，
桑島俊明，石橋慎也，高山和規，
小山大作，長野剛

④内 容：自立支援ケア会議の活動報告，
活動予定について

(5) 第3回地域包括ケアシステム推進会議

①日 時：平成28年9月21日（水）

②場 所：福岡医療健康専門学校

③出席者：志井田太一，濱本孝弘，玉野和男，
黒木勝仁，大田登志樹，平岡敏幸，
田中聡，黒田隆之，佐野功一，
靱井剛士，長野久雄，永田敬生，
榎本孝史，生駒英長，深井伸吾

④内 容：地域包括ケアシステム推進について

(6) 第4回地域包括ケアシステム推進会議

①日 時：平成28年10月25日（火）

②場 所：福岡医療健康専門学校

③出席者：濱本孝弘，玉野和男，黒木勝仁，
大田登志樹，平岡敏幸，黒田隆之，
佐野功一，靱井剛士，轟木健市，
長野久雄，永田敬生，佐藤稔，
深井伸吾

④内 容：地域包括ケアシステム推進について

(7) 第5回地域包括ケアシステム推進会議

①日 時：平成28年11月28日（月）

②場 所：福岡医療健康専門学校

③出席者：濱本孝弘，黒木勝仁，大田登志樹，
平岡敏幸，黒田隆之，田中聡，
佐野功一，靱井剛士，永田敬生，
榎本孝史，生駒英長

④内 容：地域包括ケアシステム推進について

(8) 第4回特別支援教育対策企画会議

①日 時：平成28年12月6日（火）

②場 所：麻生リハビリテーション大学校

③出席者：濱本孝弘，曾根川達司，渡邊直美，
長野清一郎，藤川貴子，
白武美智恵，徳吉悠子，
鬼塚みゆき，深井伸吾

④内 容：特別支援教育対策の今後の取り組み
事案

(9) 平成28年度福祉用具研修会開催

①日 時：平成28年10月29日（土）

②場 所：福岡市市民福祉プラザ
（ふくふくプラザ）

③参加者：20名

④内 容：今，OTに求められる福祉用具技術
～自助具とIT支援～

【教育部】

1. 研修会報告

1) 現職者共通研修(第1回)

日 時：平成28年10月1日(土)

場 所：小倉リハビリテーション学院

参加総数：191名

2) 老年期分野研修

日 時：平成28年10月2日(日)

場 所：麻生リハビリテーション大学校

参加者：38名

テーマ：「長期療養を強いられた方への作業
療法」

講 師：靱井剛士(株式会社 Rキューブ)

佐野巧一(医療法人社団水光会宗像水光
会総合病院)

3) 地域分野研修

日 時：平成28年10月23日(日)

場 所：福岡医健専門学校 参加者：30名

テーマ：「生活支援で作業療法士が果たす役割」

講 師：中畑万里子(行橋市介護保険課)

都甲幹太(介護老人保健施設あやめの里)

田中聡(株式会社 リライブ)

4) 身体分野研修

日 時：平成28年11月6日(日)

場 所：聖マリア学院大学 参加者：67名

テーマ：「脳卒中患者の予後予測と効果的な作業療法の実践」

講 師：小山哲男

(兵庫医科大学リハビリテーション医学教室)

5) MTDLP基礎研修

①福岡ブロック

日 時：平成28年10月30日(日)

場 所：福岡赤十字病院 参加者：31名

講 師：宮本香織(株式会社らそうむ)

②筑後ブロック

日 時：平成28年11月13日(日)

場 所：久留米大学医療センター

参加者：63名

講 師：長谷麻由(国際医療福祉大学)

※今年度、MTDLP基礎研修 受講者総数：399名
(平成28年11月末時点)

6) 九州作業療法士会長会主催

臨床実習指導者研修(中級・上級)

日 時：平成28年10月29日(土)～30日(日)

場 所：くまもと県民交流会館パレア

運営委員協力：青山 克実

(麻生リハビリテーション大学校)

県協会参加推薦者：村元 聖治

(八女リハビリ病院)

2. 研修会予定

1) 現職者選択研修(必須 MTDLP基礎研修)

①平成28年12月18日(日) 水光会総合病院

②平成29年1月22日(日)

飯塚コミュニティセンター

③平成29年2月12日(日)

戸畑共立病院 3階セミナールーム

2) MTDLP事例検討研修会

①平成28年12月4日(日)

会場：九州栄養福祉大学

②平成29年1月29日(日)

会場：未定(福岡市内)

3) 九州作業療法士会長会主催合同研修

日 時：平成28年1月21日(土)14:00～17:30

(懇親会：19:00～)

22日(日)9:30～12:30

会 場：九州保健福祉大学(延岡市)定員100名

研修会テーマ

1月21日(土)：『働くことを支える地域でのアプローチ』(仮)

講 師：仲地宗幸先生／株式会社NSP(90分)

講 師：小川敬之先生／九州保健福祉大学(90分)

1月22日(日)：『地域資源を活かしたマチ作り
- 行政の視点から - 』(仮)

講 師：中畑万里子先生／

福岡県行橋市役所介護保険課(90分)

3. その他

1) 日本作業療法士協会

生涯教育制度推進担当者会議

(場所：東京文具共和会館)

日 時：平成28年10月15日(土)～16日(日)

出席者：青山 克実

(麻生リハビリテーション大学校)

【事業部】

<公2>

1. イベントの開催

1) 市民公開講座(ハートメディア2016)

・開催日：平成28年10月21日(金)

・開催場所：福岡市健康づくりセンター
『あいいふ』

・内 容：「認知症の理解と支援」

講師：東京都立松沢病院

院長 齋藤 正彦氏

・参加者：116名

(一般県民、当事者、家族及び関連職種)

(市民22名、関係機関65名、不明29名)

2) 作業療法フェスタ(作業療法啓発活動)

・開催日：平成28年10月30日(日)

・開催場所：イオンモール八幡東店
ひまわり広場

・内容：講演、相談・体験コーナー、
患者作成の作品展示・販売

【講演】

①「より豊かな暮らしを求めて

～福祉機器を身近なものに～」

・講 師：横尾和親氏(横尾器械株式会社)

・参加者10名

②「障害を楽しむ方法～片手でできる
革細工体験～」

・講 師：葉山靖明氏(株ケアプラネッツ)、
藤野隆氏(ATELIER FUDINO)

・参加者：講演20名、革細工体験30名

③「あきらめない心」が伝わるメロディ
(義手によるバイオリン演奏)

・講 師：伊藤真波氏

(北京パラリンピック代表平泳ぎ4位)

柴田八衣子氏

(総合リハビリテーションセンター
中央病院)

・参加者：約130名

【相談・体験コーナー】

①認知症、精神科、発達障害、高齢者、学生向け
説明会：参加者6名

②無料お遊びコーナー(ヨーヨー釣り)
：参加者210名

③革細工体験：参加者30名

【患者作成の作品展示・販売コーナー】

就労継続支援B型わくわく、ATELIER FUDINO

- 3) 福岡市民マラソン（車いす競技）のボランティア
- ・開催日：平成28年11月13日（日）
 - ・開催場所：福岡市役所周辺（福岡市役所～糸島市交流プラザ志摩館）
 - ・内 容：車いす競技選手のサポート（8名）
 - ・ボランティアとして参加した福岡県作業療法協会会員：18名

1. 活動報告

- 1) 地域包括ケアシステム推進会議
 - ・第4回地域包括ケアシステム推進会議：10月25日（金）1名参加（榎本）
 - ・第5回地域包括ケアシステム推進会議：11月28日（月）2名参加（永田，榎本）
- 2) 事業部事業企画会議
 - ・第8回事業部事業企画会議：10月18日（火）福岡医健専門学校
 - ・第9回事業部事業企画会議：11月 9日（水）福岡医健専門学校
- 3) ハートメディア企画会議
 - ・ハートメディア企画会議：11月1日（火）福岡市健康づくりセンター（あいれふ）

【北九州ブロック】

活動報告

＜北九州ブロック＞

ブロック企画会議開催

平成28年10月31日（月） 19:00～

（公社）福岡県作業療法協会事務所

第2回事例検討報告会開催

日 時：平成28年12月9日（金） 19:00～

会 場：小倉リハビリテーション学院

コメンテーター：吉富 京介氏

（新小文字病院）

河野修氏（東和病院）

発表者：8名

聴講者：31名

第27回全国ふうせんバレーボール大会

日 時：平成28年12月11日（日） 7:00～16:30

会 場：北九州市立総合体育館

参加者：19名

＜小倉北・門司エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成28年11月8日（火）19:00～

新小文字病院すみれ寮7階会議室

＜小倉南・京築エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成28年11月16日（水）19:00～

コミュニティスペース百屋

第3回北九州ブロック研修会（エリア担当）

日 時：平成28年10月7日（金） 19:00～21:00

会 場：九州栄養福祉大学小倉南区キャンパス

テーマ：OT実践における作業療法遂行技能の評価

講 師：青山克実氏

（麻生リハビリテーション大学校）

参加者：67名

＜八幡東・戸畑・若松エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成28年10月11日（火）18:30～ あやめの里

平成28年11月15日（火）18:30～ あやめの里

第4回北九州ブロック研修会（エリア担当）

日 時：平成28年12月16日（金）19:00～21:00

会 場：九州栄養福祉大学小倉南区キャンパス

テーマ：注意障害と半側空間無視の理解と

その介入

講 師：瀧雅子氏（九州栄養福祉大学）

参加者：68名 +（学生50名）

＜八幡西・遠賀・中間エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成28年10月20日（木）19:00～ 新王子病院

＜広報部＞

企画会議開催

平成28年11月2日（火） 19:00～ 和菜屋

【福岡ブロック】

事業企画会議開催

日時：平成28年10月11日（火）

場所：桜十字福岡病院 参加：12名

日時：平成28年11月22日（火）

場所：桜十字福岡病院 参加：18名

日時：平成28年12月15日（木）

場所：桜十字福岡病院 参加：17名

広報部

1) 「Joy Style 秋号」

平成28年11月20日発行

2) Facebook：随時更新中

教育学術部

1) 平成28年度第2回福岡ブロック研修会

テーマ：地域での作業療法

～自分らしく生きる為に～

講 師：坂口聡子先生

（コールメディカルクリニック福岡）

日 時：平成28年10月21日（金）

19:00～20:30

会 場：ふくふくプラザ参加者：28名

2) 平成28年度第3回福岡ブロック研修会

テーマ：認知症高齢者への地域支援

講 師：小川敬之先生（九州保健福祉大学
教授 作業療法士）

日 時：平成28年12月18日（日）

9:30～13:00

会場：九州大学医学部百年講堂中ホール3

参加者：31名

エリア部

1) 平成28年度第2回事例報告検討会

日 時：平成28年11月17日（木）

19：00～20：30

会 場：麻生リハビリテーション大学校

発表者9名 聴講者11名

その他

1) 介護予防指導者養成研修（福岡地区会場）

○基礎編

日 時：平成28年10月10日（月・祝）

会 場：博多市民センター

OTR参加者 82名

○応用編

日 時：平成28年11月6日（日）

会 場：エルガーラホール

OTR参加者 192名

【筑豊ブロック】

<公1>

I. 事業企画会議

第4回筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成28年10月11日火曜日

会 場：飯塚記念病院

参加者：11名

内 容：第4回、第5回筑豊ブロック研修会について、他

第5回筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成28年12月12日月曜日

会 場：飯塚記念病院

参加者：18名

内 容：第5回、第6回筑豊ブロック研修会、MTDLP基礎研修について、他

II. 研修会報告

第4回筑豊ブロック研修会

日 時：平成28年10月28日金曜日

会 場：飯塚記念病院

テーマ：パーキンソン病のリハビリテーション～知見の整理と生活機能障害～

講 師：長城晃一氏（北九州リハビリテーション学院）

参加者：56名（含学生1名、ST1名、PT3名）

第1回事例報告検討会

日 時：平成28年11月16日水曜日

会 場：飯塚記念病院

発表者：4名

聴講（該当）：2名

聴講（非該当）：9名

第5回筑豊ブロック研修会

日 時：平成28年12月15日木曜日

会 場：飯塚記念病院

テーマ：地域で働く作業療法士の現状

講 師：黒田隆之氏（アイエック訪問看護ステーション）

参加者：48名

<公2>

I. 嘉麻市在宅医療推進協議会住民向け研修

日 時：平成28年11月6日 日曜日

会 場：嘉麻市役所社会教育施設
山田生涯学習館

内 容：講演会（手嶋雄太氏、松岡病院）、
啓発ブース運営協力 9名協力参加

II. 広報誌 筑豊OT TIMES 第18号

平成28年10月15日発行

【今後の予定】

<公1>

I. 事業企画会議

第6回 筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成29年2月13日月曜日

会 場：飯塚記念病院

II. 研修会

第6回 筑豊ブロック研修会

日 時：平成29年2月15日木曜日 予定

会 場：飯塚記念病院

テーマ：検討中 講 師：薦田剛敬氏
（株式会社らそうむ、作業療法士）

第2回 事例報告検討会

日 時：平成29年1月18日水曜日

会 場：飯塚記念病院

発表者：6名 予定

現職者選択研修

第9回生活行為向上マネジメント基礎研修

日 時：平成29年1月22日（日）9：20～17：30

会 場：イイヅカコミュニティセンター
学習室401

講 師：宮本香織氏（株式会社らそうむ）

<公2>

I. 広報誌 筑豊OT TIMES 第19号

平成29年1月15日発行予定

【筑後ブロック】

<公1>

事業企画会議

1) 第4回 筑後ブロック事業企画会議

日 時：平成28年10月17日（月）19：30～

場 所：高良台リハビリテーション病院

出 席：10名

2) 第4回 八女・筑後地区（B地区）企画会議

日 時：平成28年10月3日

場 所：介護老人保健施設 のぞみ船小屋

出 席：6名

3) 第4回 有明地区（C地区）企画会議

日 時：平成28年11月14日（月）18：00～19：30

場 所：ガスト白金色

出 席：5名

4) 第6回 広報部企画会議

日 時：平成28年9月20日 18：30～20：00

場 所：松岡病院

出 席：古賀、三浦、熊脇、高山（4名）

研修会

- 1) 第2回筑後ブロック全体研修会
八女・筑後地区（B地区）担当
日 時：平成28年9月19日（月祝）
10：00～12：00（受付9：30～）
場 所：専門学校
久留米リハビリテーション学院
テーマ：「認知症の生活障害に対して作業療法士にできる事」
講 師：谷川良博先生（広島都市学園大学
作業療法学専門講師）
参加者：79名（内CM1名、ST1名、Ns1名、介護福祉士1名）
- 2) 平成28年度有明地区（C地区）研修会
日 時：平成28年8月25日（木）
会 場：帝京大学 福岡医療技術学部
テーマ：「認知症に優しい住環境」
講 師：吉田 誠治 先生（株式会社 夢企画・
一級建築士事務所 夢企画 一級建築士）
参加者：56名（OT：33名・PT：7名・Ns：4名・
CM：4名・介護士：6名・リハ助手：1
名・学生：1名）
- 3) 平成28年度朝倉地区（D地区）研修会
テーマ：「旅を通じたQOL向上」～OTとして明日からできる6つのこと～
講 師：あんしんトラベル 高木 笑美氏
日 時：10月21日（金）19:00～20：30
会 場：甘木中央病院敷地内
介護老人保健施設アルファ俊聖
4階 大会議室予定
参加者：（OT：26名・PT：3名・Ns：4名・
CM：2名・介護職：3名：計34名）
- 4) 平成28年度MTDLP研修会
日 時：平成28年11月13日（木）9：00～17：30
場 所：久留米大学医療センター
参加者：63名（うちPT2名）
- 5) 平成28年度 久留米地区（A地区）研修会
日 時：平成28年11月17日（木）19：00～21：00
場 所：えーるびあ久留米
テーマ「姿勢評価と治療のポイント～シー
ティング・ポジショニングの導入～」
講 師：江原公洋先生
（介護老人保健施設 からぎステーション）
研修会では車椅子・クッションなどデモ機を
導入予定
参加者：34名（うちPT2名）
- 6) 平成28年度分野別研修会
日 時：平成28年12月3日（日）10：00～16：00
場 所：専門学校
久留米リハビリテーション学院
講 師：身体障害分野：本多亮平先生
老年期障害分野：音成龍司先生
精神障害分野：東島愛子先生
発達障害分野：中島栄子先生

- 参加者：参加者76名（学生うち6名）
- 7) 平成28年度福岡県リハビリテーション専門職
の介護予防指導者養成事業（基本編）
日 時：平成28年12月11日（日）10：00～16：00
場 所：久留米市石橋文化センター共同ホール
（久留米会場）
参加者：参加者46名＊OTのみ
- ### 3. 事例検討報告会
- 1) 有明地区
日 時：平成28年10月13日（木）19：00～20：30
会 場：帝京大学 福岡医療技術学部
座 長：古賀 昭彦 先生
（帝京大学 福岡医療技術学部）
川田 隆士 先生
（介護老人保健施設サンファミリー）
発表者：4名 聴講者：6名
 - 2) 朝倉地区
日 時：11月25日（金）19:00～
座 長：聖ヨゼフ園 濱本理事
発表者：4名 聴講者：0名
- 〈公2〉
- ### 1. 広報活動
- 1) Facebook広報実施
(1) Facebook活動報告
8/24：NPOはがくれ呼吸ケアネットさんより
研修会のご案内（10/30）
8/25：筑後ブロックC研修会実施中のお知らせ
8/27：筑後ブロック交流会のお知らせ（10/1）
8/30：筑後ブロック全体研修会のお知らせ
（再）（9/19）
9/10：日本作業療法学会in北海道
9/18：おおむた「みんなの学校」上映会
（9/22）
9/20：福岡県作業療法協会 筑後ブロック
全体研修会 報告（H28.9.19）
10/1：ツナグイベント無事終了（10/1）
10/29：ノーマライゼーションイベント紹介
（2/26）
10/29：平成28年福岡県作業療法協会分野別
研修会のお知らせ
11/25：日本作業療法学生連盟 JAOTS 九州支部
イベントをシェア
12/9：分野別研修会の活動報告
(2) 筑後ブロック交流会（秋のイベントBBQ）
日 時：平成28年10月1日（土）15：30～
場 所：筑後広域公園内
内 容：子育て世代のOTの方々が楽しめる
企画（広報戦略室企画）
参加者：福岡県OT協会会員：13名・
非会員：2名・他県士会員：1名
他職種：1名・JAOTS：6名）

【今後の活動予定】

〈公1〉

1. 事業企画会議

第5回 筑後ブロック事業企画会議予定

日時：平成28年12月14日（月）19:30～

場所：高良台リハビリテーション病院

（代表者）

2. 事例検討報告会

1) 事例検討報告会（八女・筑後地区担当）

日時：平成29年1月18日（水）19:00～

場所：久留米リハビリテーション学院

発表者：10名 聴講者：9名

2) 事例検討報告会（久留米地区担当）

日時：平成29年2月9日（木）19:00～

場所：えーるぴあ久留米生涯学習センター

発表者：8名 聴講者：17名



国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

福岡キャンパス（福岡県福岡市）

大川キャンパス（福岡県大川市）

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻

作業療法学分野／理学療法学分野／言語聴覚分野／リハビリテーション学分野／看護学
分野／助産学分野／助産学（福岡）／医療福祉教育・管理分野／臨床検査学分野 等

医療福祉経営専攻

医療経営管理分野／診療情報アナリスト養成分野／医療福祉国際協力学分野／先進的
ケア・ネットワーク開発研究分野／医療福祉学分野／医療福祉ジャーナリズム分野

博士課程

保健医療学専攻

作業療法学分野／理学療法学分野／言語聴覚分野／リハビリテーション学分野／看護学
分野／助産学分野／視機能療法学分野／福祉支援工学分野／放射線・情報科学分野／
生殖補助医療胚培養分野／臨床検査学分野／医療福祉経営学分野／診療情報管理・分析学
分野／医療福祉国際協力学分野／先進的ケア・ネットワーク開発研究分野／医療福祉学
分野／医療福祉ジャーナリズム分野／医療福祉心理学分野

修了者数

修士課程（平成12～27年度）

■保健医療学専攻	1,512名
・作業療法学分野	106名
■医療福祉経営専攻	557名

博士課程（平成15～27年度）

■保健医療学専攻	226名
・作業療法学分野	9名



主な 教授陣

●作業療法学分野 杉原素子教授 ●理学療法学分野 丸山仁司教授 ●言語聴覚分野 深浦順一教授 ●リハビリテーション学分野 赤居正美教授
●看護学分野 荒木田美香子教授 ●助産学（福岡） 斉藤ひさ子教授 ●医療経営管理分野／医療福祉経営学分野 武藤正樹教授、高橋泰教授

◆多くの授業を平日夕方以降と土曜日に開講。eラーニング科目も充実

◆福岡・大川・大田原・成田・東京青山・小田原・熱海に
7つのキャンパスを設置

◆医療福祉における第一人者の講義を、複数のキャンパスで受講できる
「同時双方向遠隔授業システム※」

※専攻、分野によっては、受講できるキャンパスが限られているものがありますので、
詳細につきましてはお問い合わせください

*修士課程は、短大・専門学校を卒業した満22歳以上の方も出願可能

分野・領域についてのお問い合わせ・資料請求先

福岡キャンパス

〒814-0001
福岡市早良区百道浜2-4-16
TEL 092-407-0434
E-mail fukucamp@iuhw.ac.jp

大川キャンパス

〒831-8501
福岡県大川市榎津 137-1
TEL 0944-89-2000
E-mail oocamp@iuhw.ac.jp

URL <http://www.iuhw.ac.jp/daijakuin/>

はじめに

福岡市西区の精神科・今宿病院に勤務し早や12年。今回、近くの豊栄会病院小出さんから思いがけずバトンを頂きました。連携不足を反省していたので、ありがたい推薦です。リハ学生時代は留年最速記録を樹立のダメダメだった私ですが、精神科病院で感じる事などを投稿させていただきます。

“子どもたちは抱かしめられるため、周りの人を笑顔にするために生まれてきた。”

これはランドセルを寄贈する「タイガーマスク運動」の先駆けとなった伊達直人こと河村正剛さんの言葉です。ところが、精神科病院勤務23年の中であまりにかけ離れた現実を多く感じます。誰もが笑顔になれる権利があるはずですが、現実には親からの虐待、育児放棄、両親や近親者の精神疾患、目の前で親兄弟が自殺、発達の偏りによるいじめ、親に発達の偏りがありそうなど困難なケースが少なくないので、笑顔を覚えずと笑顔でいられることは並大抵なことではないでしょう。そして、虐待や育児放棄は大きな問題ですが、そのまた親から虐待や育児放棄を受けていれば一概に責めることもできないでしょう。中には、子育てや妻の役割から逃れ入退院を繰り返しつつ別の男性に依存したりと、満たされなかった子ども時代を取り戻しているような方も…。そんな方が満たされ、子どもに愛情を分け与えられるにはどうしたら良いのか、“困らせる人が困っている人”なのだと思います。そんな中でも、統合失調症の親が同じ病気の娘を一生懸命に守ろうとする姿、寝たきりの夫や認知症の妻に愛情に満ちた笑顔で面会に来る姿など多くの負担を抱えていても前向きな家族を見て毎日が自分自身の勉強と反省です。

話は少し変わりますが、私が通っていた頃の小中学校は大変荒れていましたが、現在は父親も積極参加するPTA活動や地域も一体で子どもを支える学校運営に変貌しています（一番悪かった同級生も活躍中！）。母親に責任が集中せず皆で支え合う社会になれば、高齢者も若者も障がい者も、そして子どもも誰もが笑顔で活躍できるようになるでしょう。私自身も地域への関わりを大切にしたいと思います。

LGBTについて

LGBTは同性愛・両性愛・性別越境者などの方を意味する言葉の頭文字です。1年前、長女が中学放送部の映像作品テーマに選んだ時には、私にも少なからず偏見と心配がありました。しかし、瞬く間に社会の理解が進み、娘たちのDVD作品は希望する県内学校の参考教材などで100枚以上配布され、11月には全国人権・同和教育研究大会で発表の機会を得ました。自分自身の、そして社会の差別・偏見について子供から学びましたが、今後は多様な価値観が受け入れられる社会になることを願います。

県作業療法協会代議員と（一社）福精協OT・PT会福岡ブロック役員として

（一社）福岡県精神科病院協会OT・PT会については、作品数200点以上で開催されるハートメディア作品展（下の写真）やハートメディア市民公開講座でご存知の方も増えたのではないのでしょうか？

精神科病院のOTが所属病院のために勉強する場としては充実しましたが、作業療法協会未加入者が多いことが気になります。精神科病院職員の立場と作業療法士としての立場の違いを理解してもらい、協会加入を促せればと思います。



写真① 理想の同期生平岡理事とNPO法人ちゃんくすの西上さんに囲まれて



写真② ハートメディア作品展の風景

通所介護 和楽庵 作業療法士 真珠 宗彦

私は真珠宗彦（またまむねひこ）です。

私は大分県にある平松学園大分リハビリテーション専門学校で作業療法を学びました。卒業後、北九州市にある医療法人共和会小倉リハビリテーション病院へ就職し、回復期、生活期（障害者病棟、外来）を経験し、今年5月より同市内にある通所介護 和楽庵に勤務しております。作業療法士8年目です。

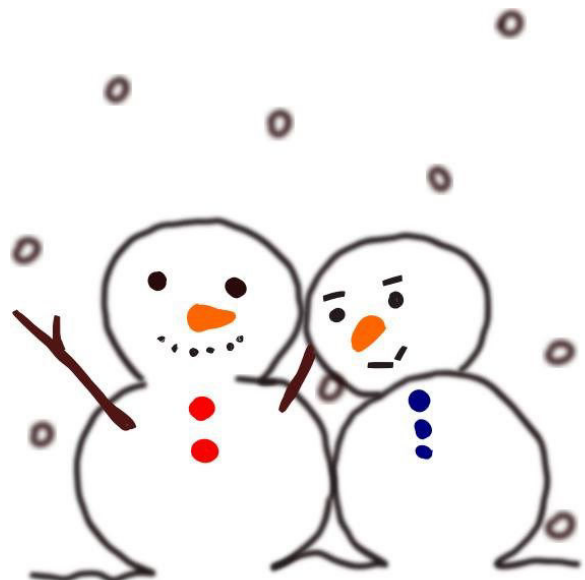
和楽庵は平成15年3月に設立された、民家改修型 通所介護施設です。小田舎の閑静な住宅街に位置し、田んぼ、畑、線路などのどかな風景が広がっています。近隣には幼稚園、小・中・高校があり、朝はたくさんさんの学生が通学しています。和楽庵の規模は地域密着型 通所介護で定員は18名、利用者様の多くは80歳～90歳代です。作業療法士は私1名です。

私は個別機能訓練指導員としてアプローチを行っています。作業療法と異なる部分は医師の診断書がないことです。ケアマネジャーの作成した居宅サービス計画書に基づいた計画を作成しご本人様、ご家族様に同意を得てアプローチを行っています。

計画は居宅訪問での情報、COPM、AMPSを用いての評価から成り、アプローチはその方の“作業”です。日々の関わりの中で、表情が良くなったり、言葉数が増えたりと活力が湧いてくる姿、“〇〇しよう”“××したい”と新たなコトへと挑戦する姿、その他作業の拡がり就是我的活力となっています。

私には臨床時、大切にしている言葉があります。“いつもこころに太陽をThere is always sunshine in my heart.”臨床4年目に作業療法って何なのだろうか？とOTクライシスに陥りました。その時に真の作業療法を教えて下さる先輩、楽しい人生の送り方を教えて下さる先輩が作業療法の面白さ、奥深さに気付かせてくれました。自分が悩む以上にクライアントが悩んでいる。自分が悩んでいる場合ではないと。臨床5年目にして作業療法を一から勉強（まずは作業療法とは何か？作業療法の歴史等）し始めました。私は作業療法士。私には何ができるのか？何も持っていない自分にまず出来ること。クライアントの“深く暗く沈んだ人生の道”を“太陽のように明るく照らすこと”今でも大切にしています。

今後も関わる方の全てが“幸せな人生だった”と言って最後が迎えられるようにこれからも頑張っていこうと思います。



医療法人社団知心会 一ノ宮脳神経外科病院 【募集職種】 作業療法士・理学療法士 【募集人員】 3名 【雇用形態】 正職員 【給 与】 249,500円～279,500円 【賞 与】 年2回 【勤務時間】 8：30～17：30 【休 日】 月10日休（2月のみ9日休） 年間119日 リフレッシュ休暇3日/年あり 【福利厚生】 昼食費負担，慶弔祝金制度など 【そ の 他】 通勤手当 【備 考】 急性発症や術後の患者さんの早期リハビリテーションに力を入れてきた病院です．リハビリテーション室の新規拡張および回復期リハビリテーション病棟オープンのための増員です．ほぼ3日に1日のペースで休みがあり，仕事と私生活を両立・充実させたい方にとっても働きやすい職場環境です． 【連 絡 先】 住所 大分県日田市竹田新町2-48 電話 0973-24-6270 FAX 0973-23-2810 担当 樋口	株式会社シダー あおぞらの里 古賀訪問看護ステーション あおぞらの里 行橋訪問看護ステーション 【募集職種】 作業療法士・理学療法士 【募集人員】 1名 【雇用形態】 正社員・非常勤 【給 与】 正社員/当社規定による 非常勤/自給1450円 【賞 与】 年2回 当社規定による 【勤務時間】 正社員/8：30～17：00 非常勤/応相談 【休 日】 正社員/土日，年間112日 非常勤/上記他応相談 【福利厚生】 持株会制度 永年勤続表彰制度 弔慰金制度 祝い金制度 【そ の 他】 交通費支給（月2万4000円迄） 社会保険完備（法令による） 【備 考】 事業拡大のための増員． 【連 絡 先】 ＜古賀＞住所：福岡県古賀市今の庄2-8-28 TEL：092-940-2135 担当：鎌田/渡邊 ＜行橋＞住所：福岡県行橋市大字道場寺1409-5 TEL：0930-26-5500 担当：能方/山本
--	---

体に合った車いす・目的に合った車いす
をご提供します
車いす・介護用品・福祉用具レンタル

本社／福岡市中央区天神 5-4-15
営業本部／糟屋郡粕屋町仲原3丁目 9-20
TEL／092-938-2208
HP／<http://www.takisyokai.co.jp>



タキ商会



会員動向調査

調査期間 (2016. 9. 9～2016. 12. 2)

福岡県作業療法協会 会員数2,928 名 (正会員2,637名 自宅会員291名)

<入会>		占部 綾	博愛会病院	: 2016年9月
原田 愛	小倉南メディカルケア病院	山口 紗代子	博愛会病院	: 2016年10月
	: 2016年9月	深根 広光	たたらりハビリテーション病院	: 2016年9月
廣田 早織	JCHO九州病院			: 2016年9月
瓜生 彩乃	新中間病院	吉田 直樹	たたらりハビリテーション病院	: 2016年9月
谷口 梨菜	北九州中央病院			: 2016年9月
竹内 拓磨	北九州中央病院	北原 ちなつ	誠愛リハビリテーション病院	: 2016年10月
小寺 麻依	福岡新水巻病院			: 2016年10月
真鍋 宇	福岡新水巻病院	舩越 直理	誠愛リハビリテーション病院	: 2016年11月
飯田 成美	福岡新水巻病院			: 2016年11月
江頭 翔	福岡新水巻病院	泉 悟史	「いこいの森」	: 2016年9月
野村 直希	小倉リハビリテーション病院	轟木 里奈	桜十字福岡病院	: 2016年9月
	: 2016年10月	香月 真	シティ・ケアサービス	: 2016年10月
松本 興成	小倉リハビリテーション病院			: 2016年10月
	: 2016年10月	北川 佳郎	村上華林堂病院	: 2016年10月
井上 健太	さくら整形外科リハビリテーション医院	藤岡 朗子	おおりん病院	: 2016年10月
	: 2016年11月	郷 知子	千鳥橋病院	: 2016年8月
湯浅 裕文	八幡厚生病院	原田 玲菜	千鳥橋病院	: 2016年8月
春田 香織	浅木病院	小山 洋介	千鳥橋病院	: 2016年10月
稗田 夏実	浅木病院	西本 あにい	南川整形外科病院	: 2016年9月
吉田 美里	東筑病院	川野 奈津	福岡和白病院	: 2016年10月
若藤 あすか	戸畑リハビリテーション病院	山元 裕子	自宅	: 2016年10月
	: 2016年9月	松行 啓祐	株式会社 らそうむ	: 2016年11月
麻生 浩司	有限会社 デイルーム だんらん	原賀 徹	共立病院	: 2016年9月
	: 2016年8月	本庄 真稀	済生会 飯塚嘉穂病院	: 2016年9月
中島 薫平	大手町病院			: 2016年9月
	: 2016年9月	前田 浩彰	麻生飯塚病院	: 2016年11月
川原 昌起	宮田病院	古賀 健太郎	久留米リハビリテーション病院	: 2016年11月
山近 弘恵	福岡青洲会病院			: 2016年11月
末武 ひろみ	ケアハウス くつろぎ	藤木 聖士郎	久留米リハビリテーション病院	: 2016年11月
板井 亜紀子	白十字病院			: 2016年11月
永石 麻実子	白十字病院	錦戸 悠	久留米リハビリテーション病院	: 2016年11月
松田 遥香	白十字病院			: 2016年11月
大隈 緋那	白十字病院	長岡 利絵	神代病院	: 2016年9月
坂根 真歩	白十字病院	佐藤 弘隆	神代病院	: 2016年9月
山下 麻実	白十字病院	西 裕介	神代病院	: 2016年11月
松尾 美穂	白十字病院	池田 隆太	新古賀病院	: 2016年10月
真野 ちあき	白十字病院	親川 真紀	聖ヨゼフ園	: 2016年10月
前田 淳貴	香椎丘リハビリテーション病院	村上 英隆	菅原病院	: 2016年10月
	: 2016年8月	大宜見 亮介	ヨコクラ病院	: 2016年10月
上野 夏歩	香椎丘リハビリテーション病院	我有 クリスティー 美智子		: 2016年10月
	: 2016年8月		白川病院	: 2016年10月
赤嶺 恭徳	香椎丘リハビリテーション病院	竹森 麗羅	古賀病院21	: 2016年8月
	: 2016年9月	北村 裕太郎	古賀病院21	: 2016年10月
黒木 麻菜美	香椎丘リハビリテーション病院	彌永 あかね	嶋田病院	: 2016年9月
	: 2016年9月	田頭 果恵	高齢者総合支援センター	: 2016年9月
松尾 竜平	香椎丘リハビリテーション病院		やまびこ	: 2016年9月
	: 2016年9月	橋本 誠一	高齢者総合支援センター	: 2016年10月
松本 康伸	香椎丘リハビリテーション病院		やまびこ	: 2016年10月
	: 2016年10月	永田 麻奈美	柳川リハビリテーション病院	: 2016年10月
飯田 茉優子	福岡みらい病院			: 2016年10月
赤星 麻衣	福岡みらい病院	鹿子 供宏	柳川リハビリテーション病院	: 2016年10月

田中 聖志 聖マリアヘルスケアセンター : 2016年10月
 竹部 憂 川崎病院 : 2016年10月
 中山 健太郎 米の山病院 : 2016年9月
 福山 晃生 嬉野病院 : 2016年8月
 植田 将広 嬉野病院 : 2016年8月
 小森 泰地 大川病院 : 2016年8月
 城島 恵介 船小屋病院 : 2016年8月
 宮川 りか 八女リハビリ病院 : 2016年9月
 吉永 有吾 丸山病院 : 2016年8月

< 県内移動 >

長村 祐臣 Q-ACT北九州 : 2016年10月
 (自宅より)
 峯 澄子 シルバーケア玄海 : 2016年2月
 (三萩野病院より)
 柴田 惇彦 介護老人保健施設 博愛苑 : 2016年4月
 (新行橋病院より)
 宮地 彩奈 つつみ会 あゆみの里 : 2016年5月
 (堤病院より)
 眞珠 宗彦 通所介護 和楽庵 : 2016年5月
 (小倉リハビリテーション病院より)
 横山 かおり 自宅 : 2016年7月
 (松岡病院より)
 新名 春香 自宅 : 2016年10月
 (介護老人保健施設 正寿園より)
 松本 耕太 大手町リハビリテーション病院 : 2016年9月
 (介護老人保健施設 ほうらい山荘より)
 濱田 愛 福岡新水巻病院 : 2016年10月
 (自宅より)
 安田 由美 デイサービス ゆみ : 2016年2月
 (良創夢訪問看護ステーションより)
 松山 拓史 まえばる老健センター : 2016年9月
 (渡辺整形外科病院より)
 香月 祐哉 千鳥橋病院 : 2016年10月
 (たたらリハビリテーション病院より)
 安川 博多郎 自宅 : 2016年12月
 (樋口病院より)
 大坪 秀明 聖マリアヘルスケアセンター : 2015年5月
 (聖マリア病院より)
 玉城 純子 筑水会病院 : 2015年12月
 (自宅より)
 山本 絵梨 米の山病院 : 2015年12月
 (おおむた訪問看護ステーションより)
 西島 智美 特別養護老人ホーム なごみの森 : 2015年9月
 (せとじまクリニックより)

松田 美恵子 指定障害児通所支援
 てとてのキッズ : 2016年4月
 (みさき病院より)
 一富 理恵 訪問看護ステーション
 「野いちご」 : 2016年9月
 (神代病院より)

< 退会者 >

無津呂 智美 : 2016年10月
 東谷 成晃 : 2016年11月
 山本 和哉 : 2016年10月
 長野 英里 : 2016年11月
 廣瀬 舞子 : 2016年9月
 倉橋 祥子 : 2016年11月

* 会員の皆様へ *

これまで、会員の皆様の異動状況を会報にて報告してまいりましたが、「事務所へ報告はするが、会報への掲載は望まない」という要望もごございます。

異動等の報告の際、会報への掲載を希望されない場合は所定の用紙（異動届等）にその旨ご記入ください。

異動の際の手続きについて

職場・自宅等の変更のあった方は、必ず文書で県協会事務局へご連絡下さい。

協会ホームページ(<http://www.fuku-ot.org/>)へアクセスし、入会・異動・退会の項から届出用紙をダウンロードして下さい。

用紙に異動前・後の施設名、郵便番号、住所、電話番号を明記して下さい。自宅住所の変更もお忘れなくお願いします。

ご不明な点は、福岡県作業療法協会事務所までお問い合わせ下さい。

TEL 093-952-7587

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今回の特集は「パーキンソン病をもつ方に対する作業療法実践の視点」です。PDの非運動症状や作業療法評価について文献に基づき詳しく解説されています。筆者の長城先生はPD友の会に参加されています。PD友の会について興味のある方はぜひ長城先生までご連絡ください。さて、いよいよ2月には第21回福岡県作業療法学会が開催されます。他施設の作業療法士がどのような取り組みを行っているかを知り、自分の臨床を振り返るとても貴重な機会となります。ぜひ参加して他施設の作業療法士と交流しましょう。
 (許山)